

美和ダム・小渋ダム 防災操作の効果【速報版(R3.8.19)】

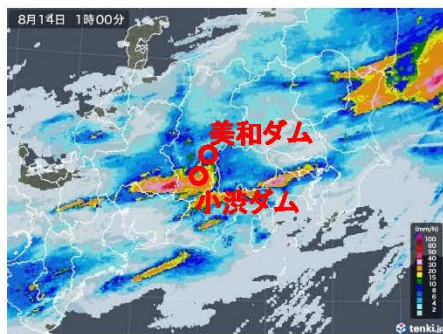
- 秋雨前線の影響により、九州から東北の広範囲に非常に激しい降雨をもたらし、長野県南部では各地で大雨となりました。
- 美和ダムでは、8月12日から8月18日までの流域平均累計雨量は約385mmを記録し、この期間における最大時間雨量は約17mm（8月13日22時）を記録しました。
- 小渋ダムでは、8月13日から8月18日までの流域平均累計雨量は約440mmを記録し、この期間における最大時間雨量は約20mm（8月18日4時）を記録しました。



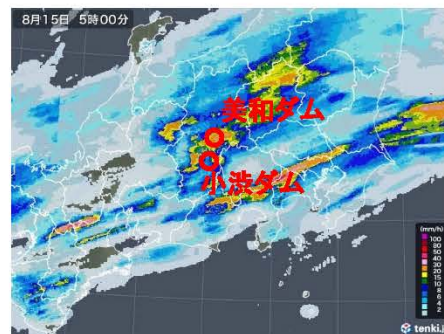
天気図(8月18日 3時00分)



気象衛星(8月18日 3時00分)



レーダ雨量(8月14日 1:00)



レーダ雨量(8月15日 5:00)



レーダ雨量(8月18日 4:00)

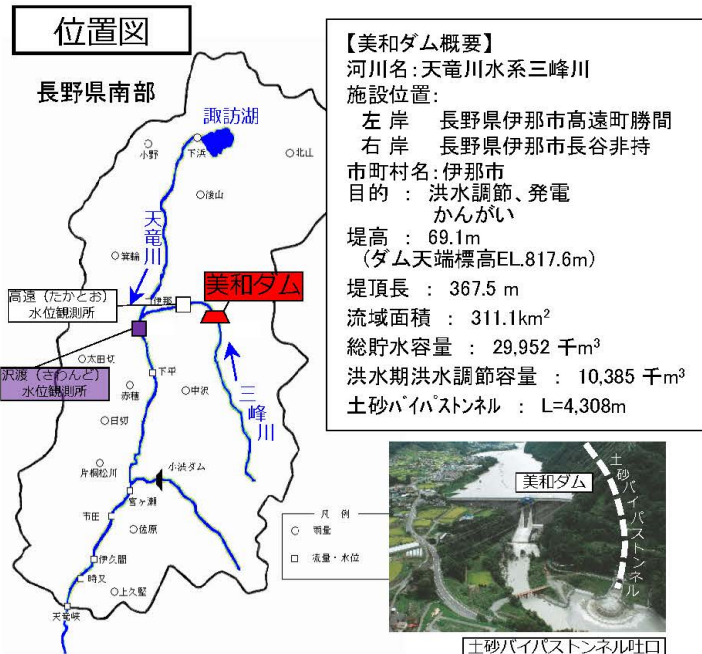


レーダ雨量(8月18日 5:00)

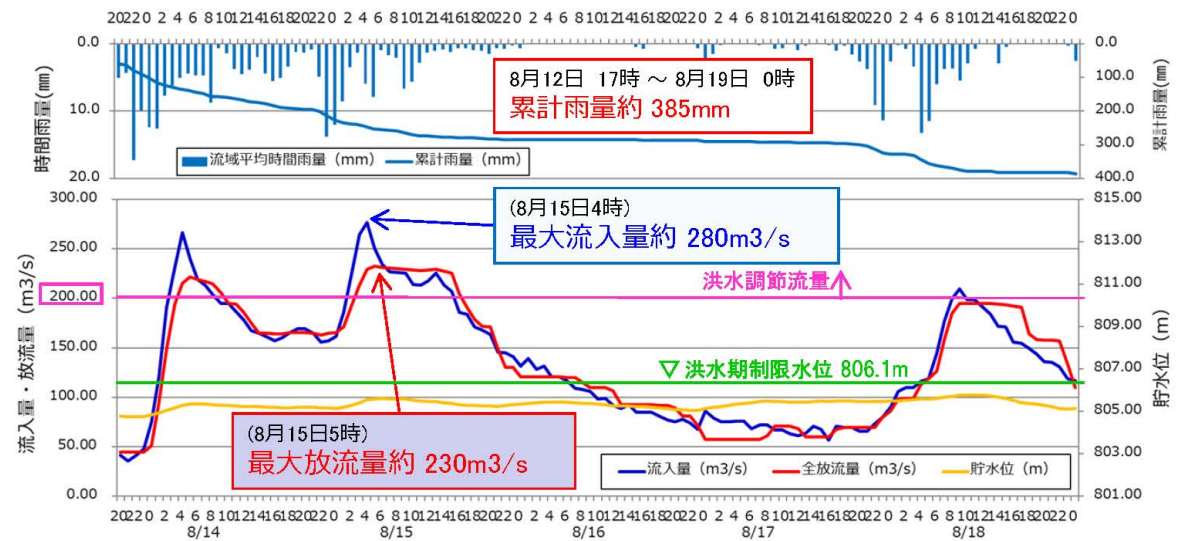
美和ダム【防災操作による水位低減効果】

- 8月12日の降り始めからの降水量は、美和ダム流域平均で約385mmを記録しました。
- 8月12日より降り続いた降雨により、美和ダムでは防災操作を実施しました。*
- 洪水ピーク時のダムへの流入量：約280m³/sのうち約50m³/sをダムに貯留したことにより、ダム下流の高遠（たかとお）水位観測所において約60cm水位が低下したと推定されます。 ※美和ダム再開発事業による洪水調節機能の強化を令和元年に実施済

※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正また追加をすることがあります。



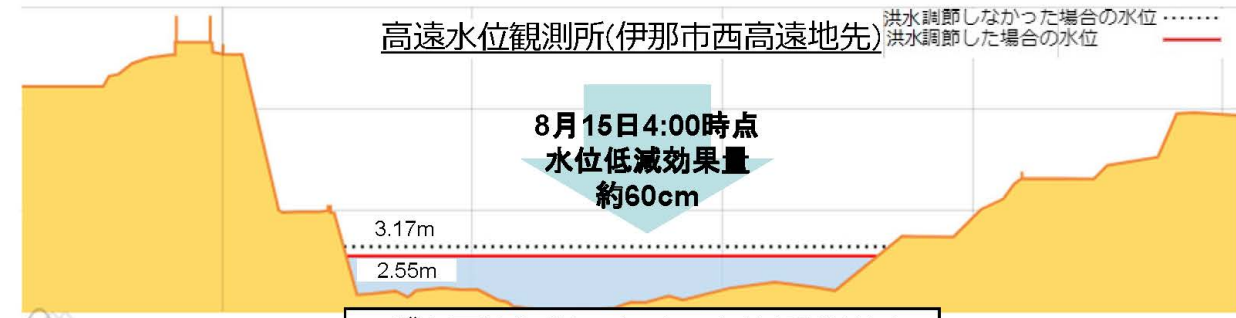
美和ダムの防災操作の状況



洪水後美和ダム貯水池状況
(8月16日13:00)



高遠水位観測所(伊那市西高遠地先)



ダム下流河川における水位低減効果

美和ダム【土砂バイパストンネルの効果】

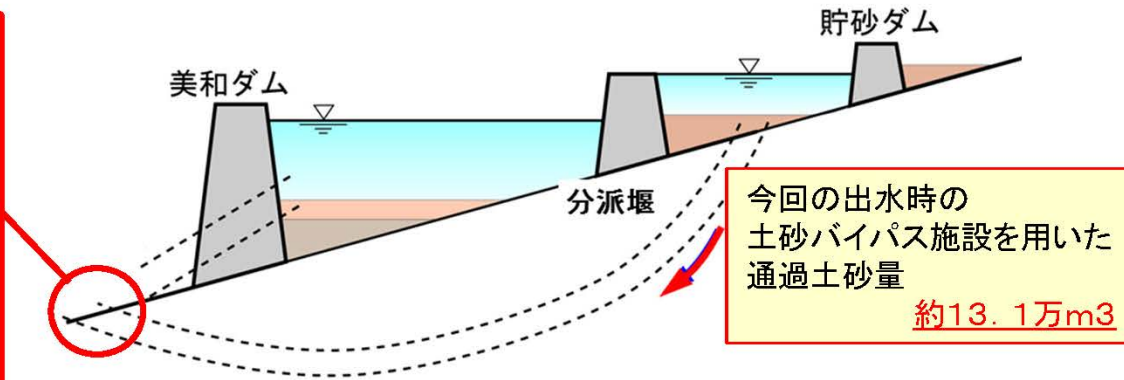
- 8月12日からの降雨において、土砂バイパス施設※を8月13日15時から8月25日19時まで運用した段階で、下記のとおり美和ダム貯水池への土砂流入を抑制しました。
- 今回の運用により、美和ダム貯水池へ流入する細かい土砂を、**ダンプトラック約2万6千台分**（約13万1千 m^3 ）**抑制**することができたと推定されます。

【数字はすべて速報値・土砂流入抑制量は解析中であり、今後の精査により変わる可能性があります。】



※土砂バイパス施設とは…

- ・美和ダム貯水池への堆砂を抑制するとともに、ダム地点における土砂移動の連続性を確保するための施設。
- ・粗い土砂を堰き止める貯砂ダム・分派堰と、美和ダム貯水池を迂回して細かい土砂を下流に流す土砂バイパストンネルなどで構成されています。
- ・また、令和3年度からは、この土砂バイパストンネルを活用しダム湖に流入・堆積した細かい土砂を下流に排砂するためのストックヤード施設を試験的に運用、モニタリング調査を実施しています。



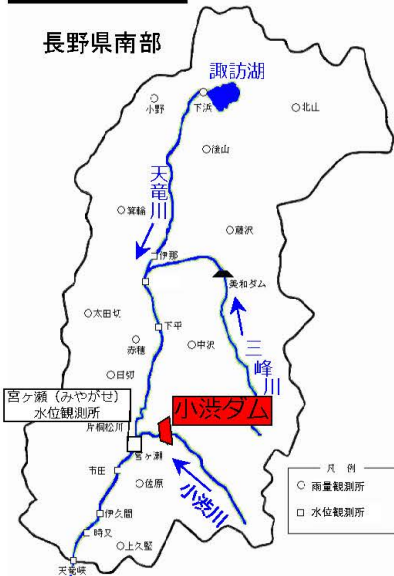
※通過土砂量の速報値について
流入する洪水の土砂濃度を観測するために設置した濁度計を用いて算定した推定値を報告するものです。

小渋ダム【防災操作による水位低減効果】

- 8月13日の降り始めからの降水量は、小渋ダム流域平均で約440mmを記録しました。
- 8月13日より降り続いた降雨により、小渋ダムでは防災操作を実施しました。
- 洪水ピーク時のダムへの流入量：約410m³/sのうち約160m³/sをダムに貯留したことにより、ダム下流の宮ヶ瀬（みやがせ）水位観測所において約40cm水位が低下したと推定されます。

※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正または追加をすることがあります

位置図



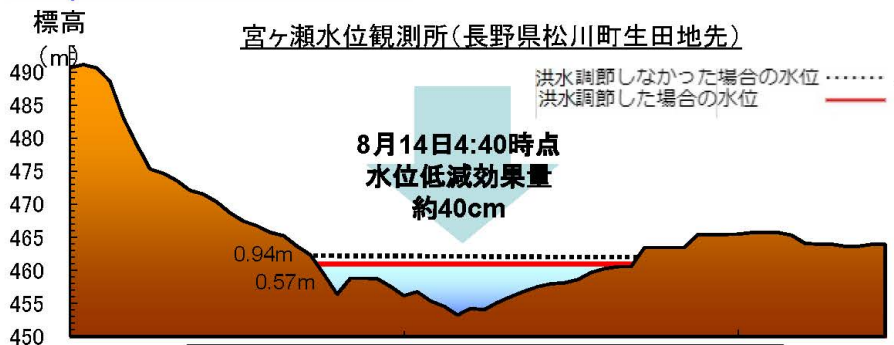
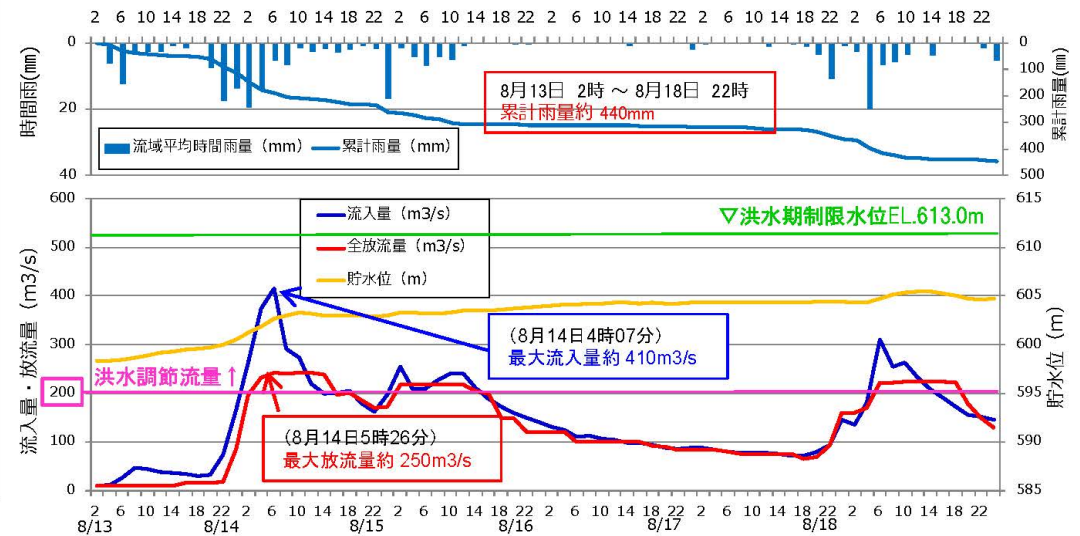
【小渋ダム概要】

河川名：天竜川水系小渋川
所在地：
左岸 長野県下伊那郡松川町生田
右岸 長野県上伊那郡中川村大草

目的：洪水調節、発電
特定かんがい
堤高：105.0m
(ダム天端標高EL.620.0m)

堤頂長：293.3 m
流域面積：288.0 km²
総貯水容量：58,000千m³
洪水調節容量：19,600千m³
(台風期)

小渋ダムの防災操作の状況



ダム下流河川における水位低減効果



洪水前小渋ダム貯水池状況
(8月12日 14時)



洪水後小渋ダム貯水池状況
(8月16日 8時)